

平成28年8月3日

一般財団法人 地域地盤環境研究所 理事長 足立 紀尚様  
京都大学 名誉教授 岡田 篤正様  
国土技術政策総合研究所 佐々木 隆様  
土木研究所 地質・地盤研究グループ 佐々木 靖人様  
京都大学 防災研究所 教授 角 哲也様  
京都大学 防災研究所 教授 千木良 雅弘様  
土木研究所 地質研究監 山口 嘉一様  
国土交通省九州地方整備局長 小平田浩司 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康  
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 電話 090-2505-3880

## 第2回「立野ダム建設に係る技術委員会」(現地調査) に関する要請書

私どもは、立野ダム問題解決のために活動している市民団体です。7月27日に会場受付で委員会開催前に提出しました「第1回立野ダムに係る技術委員会に関する要望書」はお読みいただけたでしょうか。

昨日私どもは、第2回委員会として、立野ダム建設予定地周辺の現地調査が行われることを、偶然にも国土交通省ホームページを開いて知り、本要請書を作成した次第です。

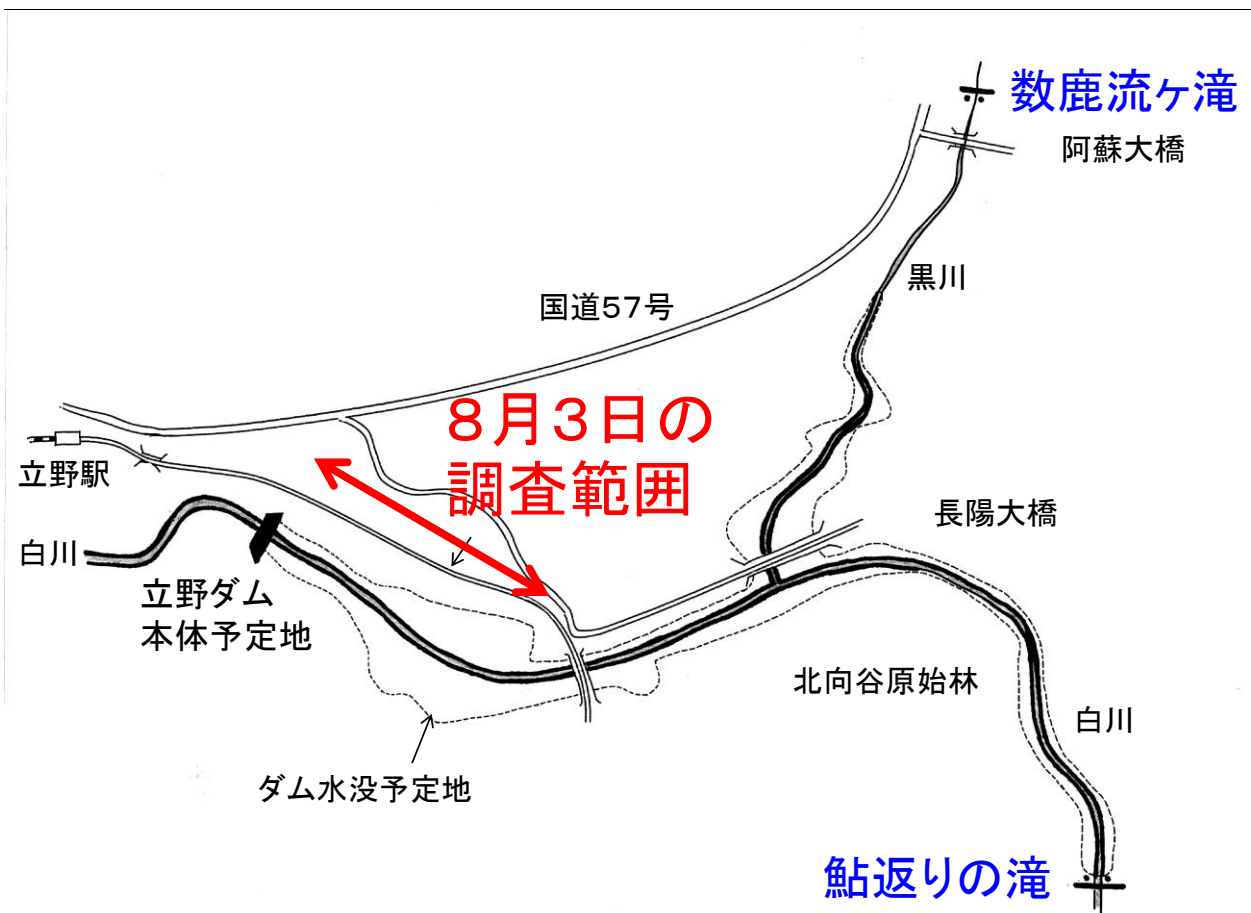
国交省の資料を見ると、立野ダム建設予定地周辺を現地調査するとしながら、鮎返りの滝までの立野ダム水没予定地(約3km)の4分の1程度しか現地調査がなされない予定となっております。黒川・白川合流点から黒川にかけての立野ダム水没予定地が、最も土砂崩壊している場所であり、国交省が本日案内する箇所のための調査では極めて不十分と言わざるを得ません。

立野ダム完成後にこの地震が起こったとしたら、ダム水没予定地周辺の大半の地盤が大きく崩れていたわけであり、ダム上流は多量の土砂や流木で埋めつくされ、立野ダム下部の幅わずか5mの穴がふさがり、洪水調節できなくなっていたのは明らかです。そこで、以下2点について、立野ダムに係る技術委員会に選ばれた委員の皆様様に再度要請致します。

### 記

1. 立野ダム本体建設予定地周辺のわずかな区間だけではなく、その大半が崩落した立野ダム湖予定地全体を現地調査すること。
2. 国土交通省の説明を聞かれるだけではなく、住民側の意見も聞かれた上で、立野ダム建設について検討されること。

以上



立野ダム水没予定地(点線)と8月3日の調査範囲(赤い矢印)

